慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	編集委員会(Henshū iinkai)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1965
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.38, No.1 (1965. 1) ,p.265- 265
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	神戸寅次郎先生記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19650115-0265

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

本号は、義塾法律科の第一回卒業生にしてながらく法学部教授であられた故神戸寅次郎先生の生誕百年を記念した特別号である。

神戸先生の生年については、塾内保存記録にも、元治元年、慶応元年、慶応三年などの諸説があるが、人事部所蔵の人事カードには「元治元年十二月二十七日」とあるので、一応これを正確なものとすると、旧暦を新暦に換算して、昭和四十年一月二十四日が満百年目に該当する。本年初頭、編集委員会は、この日の到来を記念し、先生の功績を偲んで特別号発行の計画をたて、先生の直弟子にあたる小池隆一教授はじめ部内の民法専攻者に、編集の具体的プランを依嘱したところ、早速その快諾を得、民法専攻者全員八名が、かつて神戸先生が珠玉の名篇として学界に発表された民法学の諸問題をそれぞれ分担し、それについての論考が寄せられることが決定した。そして、ここに予定通り八編の論文をあつめ、編集を終つた。

これまで、神戸先生は、明治中期以降、大正時代にかけてわが民法学界の主流をなした独法系の概念法学の一巨匠として評価されてきた。しかし、最近、内池慶四郎助教授の研究により、先生の学説は、民法典の沿革的解釈を重視した独自の傾向をもつものであり、それを概念法学のわく内に位置づけることは、かならずしも妥当でないとする異説が提唱されはじめている。先生逝きてここに二十有五年、先生の学説が、塾内新進民法学者によつて、全くあたらしい視野から考察されはじめたことは、寔に意義ふかいことであり、われわれは、今後の研究の展開に注目したい。

先生が逝去された当時のわが法学部は、法律学科と政治学科を合せ、教授二二名、助手二名（専任者のみ）、大学院生八名、学部生一、〇四五名（一、二、三学年）、別に予科生一、二五二名（一、二、三学年）の陣容であつたが（昭和十四年四月現在）、現在は、法律学科、政治学科並びに教養課目関係を合せて、名誉教授一名、教授四七名、助教授三三名、専任講師一三名、助手一九名（専任者のみ）の大世帯となり、学生数も、学部生六、四二一名（一、二、三、四学年）、大学院（民事、公法、政治学各専攻）修士課程七五名、博士課程二三名（昭和三十九年八月現在）の多数に達し、この二十五年間の歳月は、わが法学部の面目を一新、質量共に飛躍的成長をとげたのである。神戸先生が、もしもこの状況をみられたならば、どんなにか驚喜されることであろう。われわれは、今日、この盛況をみるにつけ、わが法学部の礎をきずかれた神戸先生に対し、敬慕の情、なお一層切なるを覚える。

神戸先生生誕百年に際し、われわれは特別号一編を、謹んで先生の霊前に捧げ、以て報恩の意を表すると共に、わが学部将来の発展をここにかたくかたく誓う次第である。

昭和三十九年十月二日

編集委員会